

第2回 豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会

1. 開催日時 平成28年7月4日（月）午後3時30分～午後5時00分
2. 開催場所 豊橋市役所東41会議室（東館4階）
3. 出席者 委員7名（石原委員長、世羅副委員長、伊藤委員、功刀委員、諏訪委員、富田委員、村松委員）
豊橋市7名（野尻総務部長、木和田行政課長、前田行政課主幹、野中行政課長補佐、石川主査、丸山、山本）
4. 欠席者 大久保委員
5. 会議概要 以下のとおり

発言者	要旨
事務局 (行政課課長)	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第2回豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会を開催いたします。</p> <p>開会にあたりまして総務部長の野尻より一言ご挨拶を申し上げます。</p>
総務部長	<p>改めまして、こんにちは。本日も本当に暑い中、お集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、議事にありますように、これまでの評価方法の検証と、それから、新たなプランの評価方法に対する意見交換となっております。</p> <p>忌憚のないご意見をいただいて、それを反映させていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。</p>
事務局 (行政課課長)	<p>それでは、議事に入る前に今後の日程についてご相談させていただきたいと思ひます。今年度から新たなプランが始まったこともあり、進め方・評価方法の変更を予定しています。その一つとして、年度毎にテーマを定めて全庁的に事業の見直しをかけることを検討しております。今年度はイベント等に関する見直しを行う予定であり、その内部での検討資料を踏まえて、外部検証委員会としてのご意見・評価をいただきたいと考えております。</p> <p>8月30日を候補として考えておりますが、皆様ご都合いかがでしょうか。時間帯は本日と同じ時間帯を考えています。</p> <p>《 異議なし 》</p>

発言者	要 旨
事務局 (行政課長)	<p>それでは、8月30日に開催させていただきます。 よろしく申し上げます。 それでは、委員長お願いいたします。</p>
石原委員長	<p>それでは、議事に入ります。「総括報告書について」、事務局より説明を願います。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>《議題1 総括報告書について説明》</p>
石原委員長	<p>ただ今の説明について、ご意見・ご質問はありますか。</p>
功刀委員	<p>この評価の中で、内部評価がD、外部評価が要検討の取組については今後どのように対応していくのか。評価しただけではなく、今後のフォローアップ的な内容も必要ではないか。</p>
事務局 (行政課長)	<p>外部評価が要検討の取組については、外部検証委員の意見を受けてどう対応していくのか、すべて各課とやり取りをしています。そして予算にどう反映させるか、12月に委員の皆さんにお示しする予定です。</p>
世羅副委員長	<p>評価基準が分かりにくく感じるため、目次に掲載するなど検討するとよいのではないか。</p>
諏訪委員	<p>指標1（財政指標）や指標4（経済的効果に関する指標）について、数値の適正な水準がわかるような記載があった方がよいのではないか。</p>
石原委員長	<p>続きまして、「外部評価委員会の評価・意見について」、事務局より説明を願います。</p>
事務局 (行政課主幹)	<p>《議題2 外部評価委員会の評価・意見について説明》</p>
石原委員長	<p>この案では外部評価委員が自画自賛しているように感じるので、表現を修正する必要がある。</p>
世羅副委員長	<p>5年経過する前に目標が達成された場合、目標値を変更するなどの見直しを行う必要があることをこれからの課題として記載してはどうか。</p>
村松委員	<p>成果について、どのように変わったのか、もっと具体的に内容を記載する必要がある。</p>

発言者	要 旨
諏訪委員	課題についても、同様に具体的な記載が必要である。
伊藤委員	<p>同感である。例えば、要検討と外部評価された取組が、各課とのやり取りによって実際にどのように変わったのか例示するなどしてはどうか。</p> <p>その方が外部評価を実施した意味がある。</p>
世羅副委員長	東日本大震災の記述は、具体的にどのように市民意識に影響を与えたと考えて記載しているのか。
事務局 (行政課長)	影響については、防災や市民協働意識の向上などの影響を考えている。
功刀委員	この文脈だと、マイナス影響を与えたような印象を受けるので、プラスの影響について言っているのなら、表現を変える必要がある。
石原委員長	<p>では、只今の意見を踏まえて委員長案を提示して、それについて次回意見を頂戴することとします。</p> <p>続きまして、「行財政改革プラン2016の評価方法について」、事務局より説明を願います。</p>
事務局 (行政課主幹)	《議題3 行財政改革プラン2016の評価方法について 説明》
石原委員長	<p>事業を実施している課が自主的に事業の見直しを行い、それを取りあげるメリットシステムのような仕組みはできないか。</p> <p>インセンティブを事業費だけでなく、旅費や需用費など課の事務経費にもまわせるなど、職員がやる気になるような工夫をして欲しい。</p>
事務局 (行政課主幹)	財政課では、自主的な見直しに対してのインセンティブを検討しています。
石原委員長	<p>せっかく外部委員の評価を行って、専門チームの評価も実施していくのだから、いい取組をした課を表彰するのもよい。上の年代の職員が若い職員に声をかけるだけであってもいいし、お金をかけずに職員の気持ちを高める方法はある。</p> <p>また、最近では、市民のニーズを聞きとりながら一緒に作り上げる、コ・クリエイションしていくという考え方が出てきている。市民と一番近い事業セクションのアイデアを吸い上げる取組を行ってはどうか。</p>

発言者	要 旨
諏訪委員	事業課が自主的に見直しをした部分を認めるシステムにシフトしていく必要がある。市民のニーズを一番把握し、考えているのは事業課の課長だ。予算の削減ばかりではなく、自主的に削減した分は、そういったニーズに答えるための、各課がやりたい施策に使える方策を考えてほしい。
村松委員	個別の取組については、PDCA サイクルを回すだけでなく、結果を出すことが必要とされる。
功刀委員	ヒアリングは、すべて外部検証委員が行うのは困難ではないか。どのように進めていくのか。
事務局 (行政課長)	詳細は、今後皆さんに相談させていただきながら決めていきたいと考えている。基本的には、年度ごとに重点項目を決めて、5年間でほぼ全体を見ていただけるようにしたい。
石原委員長	他にご意見がなければ、これで終わります。 次回は8月30日です。 ありがとうございました。